

2 : タイの内閣は国王に任命された首相 1 名と 35 名以内となる国務大臣で構成されてその下に中央行政組織が組み込まれる。

議会は上院議院、下院議院の二院制で

上院は直接選挙による定数 200、任期が 6 年となる。

下院は小選挙区比例代表制で定数が小選挙区 400 比例が 100、任期が 4 年となる。

3 : 最近の政治情勢は

1932 年に発生した立憲革命以降軍部主導の政治が続いたのだが

1992 年軍部と民主化勢力との衝突 (5 月事件) でプミポン国王が仲裁した後は軍部は政治関与を控える形となり比較的民主的な政権交代が続いていた。

1997 年に成立した新憲法の下で行われた 2001 年下院選挙でタイ愛国党が圧勝し第 1 次タクシン内閣が成立する。タクシン一族は携帯電話事業、衛星通信事業で成功し、初の経済界、ビジネスマンからの首相誕生で数々の経済改革政策を実現。

治安対策も麻薬撲滅には厳罰を持って対処し、観光客の増加、インフラ整備などを推し進めタイの経済成長に貢献した。

2005 年 2 月の満期満了に伴う選挙でも圧倒的に勝利を収めたのだが今回のクーデターによって失職するかたちとなった。

新首相スワユット氏は再び軍関係者からの首相誕生で経済政策の進捗を危ぶむ声もある。

2006 年度からの課題として

- 1、最南部のイスラム過激派との治安問題
- 2、鶏インフルエンザのワクチン、養鶏産業対策
- 3、2004 年末にインド洋津波で受けたダメージからの観光産業のてこ入れ
- 4、電力会社、通信会社などの公営企業の民営化の遅延
- 5、バンコク鉄道網の整備
- 6、貧困層への医療対策と教育対策

などが挙げられる。

タクシン首相は経済対策はホントによいことを数多くしてきたと思うんです。

- O T O P と呼ばれる一村一品運動による地方産業の活性化
- ラオス、カンボジアなどのメコン経済協力戦略の提唱
- A S E A N 各国との関税引き下げの旗振り役
- 日系企業を中心に法人税引き下げによる外資誘致政策

Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120

Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.

○医療制度や教育面でも多くの貢献をしております。

しかし知識層、中間富裕層、厳罰対処による引き締め政策から反タクシン派の運動は少しずつ増えていたところに、2006年1月の家族が保有する株式をすべて売却して無税で利益を得たことに端を発して反タクシン運動が盛り上がったのです。

結局9月19日のクーデターによりタクシン首相は失脚。
ここから新たな首相の下でタイの経済政策が始まるわけですが彼がもう少しクリーンであったらと思うと残念でなりません。
(彼自身はクリーンだと考えているかもしれませんが・・・)

□□No 2 タイ株上級者編です■

過去のタイ株関連メルマガであまり触れられてなかったコーナーを作りました。

●● 002 PTTEP です。○○

PTTEPは国営石油開発と訳されEPはExploration & Productionの略です。

PTTEPはタイ国唯一の石油探鉱・生産を行う会社。

主要業務は天然ガス、原油、コンデンセート(天然揮発油)の開発、生産など。外国企業との提携や共同開発でタイ近隣から中東、アフリカまでの石油探査開発も行う。

1985年に国営企業であったタイ石油公社(現PTT)により設立、子会社化された。

1993年に民営化される。PTTは現在同社株の66%を所有。

全額出資子会社であるPTTEPインターナショナルは、マレーシア、ミャンマー、ベトナム、中東、北アフリカに事業を展開して石油探掘、開発する。

PTTEPは現在29の事業に出資している。かつてはボンコットガス田が総産出の約半分を占めていたが、ヤダナやイエタゲン等新たに開発されたガス田の生産が本格化し、また複数の既存ガス油田の権益を買収したことに伴い同ガス田への依存度は21%にまで低下している。

2007年上半期にはアーシットガス田の生産が始まる予定であり、既存のガス油田の取得とも相俟って同社の生産基盤はより広く分散化される見込みである。

さて前回のPTTの子会社なのですがこちらも大きな会社です。

2006年4月25日、1株を5株へ分割し額面5 Baht から1 Baht へ引き下げました。PTTEP側に寄れば、流動性向上が目的でしたが、

その分割前までは1株648 Bahtまで上昇し、全銘柄最高株価でした。

買いやすくなったことに加えて4月に入った情報でアティット鉱区開発遅延による悪いニュースで少しですが、PTTEPの株価は下がりました。
株式分割前に上がり過ぎた反動もあると思われますが・・・

PTTEPは親会社のPTTに依存度が高いのが特徴です。
それでも親会社のバックボーンがしっかりしているために買いの検討余地はあるかもしれません。

さらに詳しい情報は後ほどUPDATEして行きます。
直接管理人にお問い合わせ下さい。

2006年10月6日現在の株価は107バーツで終わりました。
株式分割が奏功して取引量も増えております。4月の頃はガソリン価格も
上昇の一途ですする上昇しておりました。

PTTEPが発表した決算では、2005年の売上高が前年比40%Upの695億
8000万 Baht、(日本円でおよそ2087億円)
純利益が同49.6%Upの237億4000万 Baht(日本円でおよそ712億円)
に拡大したと発表しました。

PTTEPのマルチ社長のコメントでは、増益の要因として
販売量の増加と価格高騰、
平均石油販売価格は、04年の同期間の23.38ドル/バレルから26%Up
となる29.37ドル/バレルまで上昇したこと。
油田開発でもタイ国内の内陸では国内最大のシリキット油田・天然ガス田を含む
「S1鉱区」の開発強化の結果を挙げたこと。
ただし、全体のコストも前年比40%増の278億5000万バーツに上昇した。
などをコメントしています。

□□No3 タイ国内ニュース編です■

タイではそろそろ乾季に入るところですが
雨が大変多く、帰宅時に降ろうものならもう大混雑で家へ帰るのを
伸ばしてしまうくらいクルマが増えます。

晴れていればちょっと屋台へ寄ろうとするタイ人が
一斉に帰路に着くためにどうしても細い道路にクルマが集まり
帰宅にかかる時間が2倍になってしまいます。

そうそうタイの市内ですがクーデターも騒がれた割に何もなく、
市街の中心部にいた戦車ももう見る事ができません。

中には抗議のために集会をしたり、戦車に無謀にも突っ込んだタイ人もいたようですが、この国では国王様さえOK出してしまうとそれは正当化されてしまうと言う日本人ではちょっと理解しにくい構造となっているために抗議運動はほとんど起こらない状態になっています。

新政権への移行もスムーズに行われるらしく、このあたりはゆっくりと見守りながらいくしかないようです。

□□No 4 追伸です■

さてこの欄ではそもそもわたくしABEがタイに来るきっかけになったことからお話したいと思います。(九州編2号)

九州の田舎で過ごすと思議とそれまでひどかった花粉症やアレルギーが出なくなりました。よく自然の中に囲まれた生活するとアレルギーの体質がなくなるというやつでしょうか。

毎日学校終わってはセミを取りに行ったり
モグラを探しては捕まえたり、ザリガニを釣りに行くなど
都会ではできないことを思う存分してました。

小学校へは徒歩で1時間かかると言う辺鄙(へんぴ)な場所であったため
毎日良く歩いていたのも原因かもしれません。

方言もマスターし小学校にも慣れてたころ
小学2年生で担任の先生が鬼のように怖い先生に代わりました。
今でこそ体罰は禁止みたいな風潮ですがその先生は忘れ物しようものなら
げんこつは当たり前のような鬼軍曹のようなおじいちゃん先生でした。

当時のわたくしは前ならえしたら2番目、時には1番前に来るくらい
体の小さいコでびくびくしながら生活してました。

とある日のこと。
期末の試験があってみんな終わり次第帰っていいと言う算数のテストを受けてました。

みんな終わり次第、鬼先生の前に並んでいたのですがその時
一番仲の良い友人に「あれ、そこ間違ってるよ」と並んでる際に教えてもらい、
少しでも良い点をと、思ってたわたくしはとっさに直してしまったのです。

こんなことなら良くある事なのですが
なんと先生に採点してもらった後、100点を取ってしまったんです。

そこを直さなければ(ある意味カンニングに近い)

※公式サイトはこちら → <http://toatoa.jugem.jp/>

Copyright (c) 2003-2006 Toshiyuki Abe. All rights reserved.



Issued by Toshiyuki Abe in 902/112 SVcity Tower1 Rama3Rd Yannawa Bangkok 10120

Under a 2 Research Company date, I Toshiyuki Abe wrote this overview research and comment in this report. As a result investors should be aware that the report & comment may conflict of interest that could affect the objectivity of this report.

Investor should consider this report as only a single factor in making their investment decision.